

平成 29 年度刊行 埋蔵文化財発掘調査報告書 要約

金沢市文化財紀要 3 1 2 『金沢城下町遺跡（兼六元町 7 番地点）』					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金沢城下町遺跡（兼六元町 7 番地点）	集落 城下町	古墳 江戸	溝 井戸、土坑、 石組溝	土師器、須恵器 土師器、陶磁器、 土器、瓦、木製品、 石製品、金属製品	周溝か 色鍋島の皿片が出土 井戸枠に舟の底板を 転用
要 約					
<p>雨水貯留施設整備工事に先立って平成 23 年度に実施した金沢城下町遺跡（兼六元町 7 番地点）の発掘調査報告。調査地は金沢城の東側約 300m の地点に位置する武家地で、絵図等で確認できる範囲においては禄高 150 ～ 500 石クラスの武家が 3 軒あった場所と推定される。</p> <p>遺跡からは、平地式建物の周溝と目される古墳時代前期の大溝が 1 条検出されている。調査区周辺の地形から、当該期の集落は調査地の南西側に向けて展開していることが推測される。</p> <p>近世では、屋敷境界と思われる石組みの溝（平らな石製の蓋を伴う）が 1 条、屋敷境を示す石列（土塀の基礎か）1 条、井戸 4 基、近世のゴミ穴と考えられる大型土坑、整地層などが検出されている。中でも井戸 SE03 の底からは舟の底板を転用した井戸枠が検出され、北陸における近世舟の構造の一部が明らかになった。また、調査区南東部からの鍋島焼色絵皿片 1 点の出土や、調査区北寄りから燻瓦が多く出土している点も特筆すべき事項として挙げられる。</p> <p>当該発掘調査は、段丘縁辺部における古墳時代集落の発見とその分布の推定がなされたこと、近世においては検出された遺構の配置から武家敷地内における空間構成の一端が明らかになったことが成果として挙げられよう。絵図との比較からその変遷を追うことのできる希少な調査結果であり、鍋島焼や腰瓦、舟底板などをはじめとする様々な出土遺物は、城下町の成立期から近代まで続く武家地における生活の様相を窺い知ることができる貴重な資料といえる。</p>					

金沢市文化財紀要 3 1 3 『金沢城下町遺跡（大手町 3 番地点）－津田玄蕃邸跡－』					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金沢城下町遺跡（大手町 3 番地点）	城下町	江戸	土坑、埋甕、 集石遺構、石列	陶磁器、土器、 土製品、金属製品、 銭貨	
要 約					
<p>マンション建設工事に先だって平成 28 年度に実施した金沢城下町遺跡（大手町 7 番地点）の発掘調査報告書。約 45 m²の調査区から土坑 5 基、埋甕 2 基、石列 1 基、集石遺構 1 基が確認され、17 世紀初頭から 19 世紀前半まで、幅広い年代の遺物が出土している。調査地は加賀藩人持組の津田家（禄高 10,000 石）の屋敷地の一角にあたる。</p>					

『金沢市指定史跡 本多家上屋敷西面門跡及び塀跡附道跡 調査報告書』

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金沢城下町遺跡（本多氏上屋敷跡地区）	城下町	江戸	道跡 石段 石垣	国産陶磁器 土器 瓦	屋敷西面の台地縁辺部を境界する塀基礎石積の開口部にある門跡から台地下に下る道跡において石段遺構を検出した。石垣は三次元レーザー測量を実施した上で一部解体修理を実施、解体時には発掘調査を実施し、写真測量及び石材調査を実施した。

要 約

金沢市指定史跡「本多家上屋敷西面門跡及び塀跡 附道跡」の公開活用整備に先立って平成 26～28 年度に実施した発掘調査、測量調査、その他各種調査の報告書。発掘調査及び測量調査で遺構の状態及びその内容、遺構面の深度等を確認した。また、石垣整備に並行して石垣平面の写真測量、裏込め部分の発掘調査、石材石材等の計測及び記録を実施した。

遺跡は金沢城から見て南南東方向にあたり、藩政期には加賀藩重臣である本多家の上屋敷（当主の居屋敷）だった。本多家上屋敷と陪臣屋敷地である下屋敷とを連結する新旧 2 段階の道跡においては、発掘調査により旧段階の道跡 2 では野石、新段階の道跡 1 では切石による石段状遺構を確認した。また、出土遺物により道跡の変遷時期についても概ねとらえることができた。石垣については三次元レーザー測量により、詳細で立体的な形状記録を実施した。これにより、石垣の立面形状及び横断形状を精密にとらえることができ、石垣の変形部分の把握に効力を発揮した。

『畝田・寺中遺跡ⅩⅢ 一木曳野遺跡群ⅩⅠ一』

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
畝田・寺中	集落跡	縄文 弥生 古墳 奈良・平安 鎌倉・室町	掘立柱建物跡 6 棟 溝跡 13 条 土坑跡 22 基	土師器 須恵器 陶磁器 木製品 石製品	

要 約

土地区画整理事業に先立って実施した畝田・寺中遺跡の発掘調査報告。本書では平成 16 年度に調査した東西の区画道路のうち、東側の調査区について報告。掘立柱建物跡、井戸跡、遺物を含む溝跡等を検出した。SD310 は中世の区画溝と考えられる。その他の遺構から出土する遺物は古墳時代前期のものが多く、当該時期の集落跡の一部と考えられる。また、方位に沿って配置された隅丸方形の柱穴跡を有する総柱建物は古代の倉庫跡と考えられる。SK320 は古代の祭祀関連の土坑と考えられる。

『金沢市指定史跡 金沢城惣構跡（升形遺構） 史跡整備報告書』

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西外惣構跡 (升形地点)	城下町 惣構	江戸	堀 石垣	中国磁器 国産陶磁器 石製品 金属製品 木製品 瓦	升形遺構の堀の岸を 検出

要 約

金沢城惣構跡（升形遺構）の整備に係る調査及び整備報告書で、史跡整備に伴い平成 29 年度に実施した発掘調査成果を掲載。

整備では、市道部分の遺構残存状況確認調査及び堀護岸としての石垣の積み直しを実施し、結果、惣構の外側堀岸が検出され、築造当初の堀幅が西で約 14m、北で約 11m の規模であったことが初めて明らかになった。また、石垣の積み直しでは、作業過程において、これまで未検出であった石垣が検出され、新たな知見が加わった。

その他、整備では土居を推定復元したが、その指定方法について論じている。